

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障がい者スポーツ論 Adapted Sport Therapy		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(選択・資格課程必修(初級障がい者スポーツ指導員))	後期に障がい者スポーツ演習を履修する者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
五十嵐 正雄	非常勤講師室	授業内で指示する		授業中に指示します
授業の概要				
障がい者の運動機能の維持や精神機能を向上させるために運動・スポーツは大変有効な方法として知られている。障がい者スポーツについて知識として理解することにより、優れた対応ができる人材養成を図る事を目的とする。				
授業の目標				
各施設、指導現場において障がいを理解し、運動機能の状態を判断できるようにする。さらに障がい者を取り巻く制度や各種大会の理解を習得することで、発展的な広い視野を持てるようにする。				
授業の方法				
授業用配布資料による講義、DVDによる視聴覚教育、ディスカッション、ブレインストーミング				
学習の成果(学習成果)				
①障がい区分や生理的理解を得ることで障がいの分類が説明できるようにする。 ②障がい者制度を知り、リハビリテーションの一環としてスタートした障がい者スポーツが現在では競技スポーツに進化している状況を伝えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	障がい者福祉施策と障がい者スポーツ①(わが国のスポーツ施策と障がい者スポーツ)			
第2回目	障がい者福祉施策と障がい者スポーツ②(我が国の障がい者福祉施策)			
第3回目	リハビリテーションとは①(各障がいの基礎知識)			
第4回目	リハビリテーションとは②(メディカルチェック)			
第5回目	ボランティア論①(ボランティアという活動、ボランティアの魅力)			
第6回目	ボランティア論②(ボランティアの心得と注意点)			

第7回目	障がい者スポーツの意義と理念（障がい者個人に対しての意義、スポーツ界に対しての意義、社会一般に対しての意義）	
第8回目	障がい者スポーツの意義と理念②（アダプテッド・フィジカル・アクティビティ、People First、二つの物差し）	
第9回目	安全管理	
第10回目	日本障がい者スポーツ協会資格認定制度	
第11回目	全国障害者スポーツ大会の概要①（全国障害者スポーツ大会の実施競技、規則、歴史、目的）	
第12回目	全国障害者スポーツ大会の概要②（全国障害者スポーツ大会の障害区分）	
第13回目	全国障害者スポーツ大会の概要③（全国障害者スポーツ大会種目の指導法）	
第14回目	障がい者の各種スポーツ大会について学ぶ	
第15回目	小テストとレポート提出	
事前・事後学習	事前学習については前の週で予告されたテキストのページを読んでおくこと。事後学習については学習した内容をテキストやマニュアルを用いて振り返りを行うこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	積極性や発言などの受講態度から判断する。
レポート	30%	障がい者スポーツに対してレポートを書き、理解度の確認をする。
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	テキストを中心とした内容の理解度を確認する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「障がい者スポーツ指導教本 初級・中級」（財）日本障がい者スポーツ協会編 授業内で適宜指示をします		
履修上の留意点・ルール		
実務経験 職種：介護福祉士 職歴：16年 教室への食べ物の持ち込み禁止と携帯電話の使用禁止。		